

## ベンガル語の expressives をめぐって<sup>1</sup>

大西正幸 (同志社大学文化遺産情報科学研究センター) /  
ドゥルガ・ポド・ドット

### 1. 序

本稿は、ベンガル語の expressives を扱う。Expressives とは、一言で言うと、「音象徴を体系的に利用する語類」のことである。この語類を指す用語として、他にも、日本語の「擬音・擬態語」または「オノマトペ」(田守・スコウラップ 1999、浜野 2014)、アフリカの言語の 'ideophones' (Voeltz & Kilian-Hatz 2001) などが用いられているが、その類型論的な研究が世界中の言語に及んでいるとは言えず、その点では、いまだにこの言語現象を指す定着した用語はないと言えよう。本稿では、東南アジアのさまざまな言語に見られるこの現象を扱った先駆的な研究、Diffloth (1972, 1979 など) に従って、expressives という用語を用いることにする<sup>2</sup>。

現在、筆者たちはベンガル語の expressives の網羅的なデータベースを作成中であり、それに基づく包括的な研究を目指しているが、現段階では、データ面でも方法論の面でもまだ十分整理されていない。本論文は、そのような包括的な研究に向けての、最初のステップという性格のものである。

本論文の焦点は、ベンガル語の expressives の基本的な音韻形態的構造、そこに現れる音素が表す意味の(必ずしも組織的ではない)分析、そしてベンガル語の文法や語彙の他の面に現れた expressives と類似の現象をめぐる考察である。Expressives の統語的・談話論的側面は将来の課題とする。ただし、expressives がどのような統語的な枠組みの中で用いられるかについては、文例をもとに、本節の後半で簡単に触れることとする。

ここで、Diffloth (1979) を参考にしながら、筆者たちが expressives の一般的特徴と考えている点を、暫定的に要約しておく。

#### (1-1) Expressives の一般的特徴：

- (a) 言語音の物理的(調音的ないし音響的)要素と、その音が喚起する象徴的な意味との**直接的な対応**に基づく、生産的な語彙体系である。

<sup>1</sup> 本稿は、言語記述研究会第 66 回研究会(京都大学, 2015 年 10 月 10 日)における口頭発表、Onishi, M. and D. P. Datta 'Bangla Expressives'に基づいている。この研究会の参加者、特に、ネイサン・バデノック、千田俊太郎、秋田喜美、林範彦、藤原敬介、古本真の諸氏から、有益なコメントをいただいた。また、長田俊樹氏と伊藤雄馬氏には、本稿の初稿全体に目を通していただき、貴重なコメントをいただいた。これらの方々に感謝する。なお、本稿の元となったデータの収集、および上記の口頭発表に関し、文科省科研費(基盤 B)「南アジア諸言語の文法記述研究—言語類型論的視点から」(代表:長田俊樹)(課題番号:26284063)の助成を受けたことを記し、ここに謝意を表す。

<sup>2</sup> 長田(2009)は、ムンダ語の expressives を「感情語」と呼んでいる。この用語は「喜怒哀楽などの感情を表す語」という意味で頻繁に使われているようなので、誤解をおそれて本稿では用いず、ややぎこちなくはあるが英語の用語をそのまま用いる。

- (b) その体系は、言語音とそれが表す意味の**恣意的な関係**に基づくとされる文法体系の中に、はめ込まれている。
- (c) (a)に見出される**直接的な対応**は、しかし、(b)の**恣意的な関係**に基づくとされ文法体系や語彙の一部の中にも、見出される。
- (d) Expressives は、対象言語の (b)の原理に基づく音体系の中に既に存在する要素を、(a)の目的のために自由に再編・再体系化して利用する<sup>3</sup>。

ベンガル語では、この語類のことを、伝統的に ‘dhvanyātmak shabda [dhonnattok śobdo]’、すなわち「音によって特徴づけられる語」、と呼び習わしている。ベンガル近代の代表的詩人ラビンドラナート・タゴール<sup>4</sup> (1861-1941) は、ベンガル語の形態音韻論の先駆的研究のひとつである *śabda-tattva* 「音の理論」 (thākur 1935) の中で、1つの章をこの ‘dhvanyātmak śabda’ に割き、600を超える例をベンガル語のアルファベット順に挙げ、それらの語において音が象徴的に表す意味について詳細に論じている。そこに掲載されている例を冒頭から挙げると<sup>5</sup>：

- (1-2) ai=ḍai āku=bāku ān=cān amta=amta  
 ili=bili  
 uḥ=kuḥ  
 kṛc kṛc-at kṛc=kṛc kṛc-a=kṛc kṛc-or=kṛc-or kṛc=mṛc kṛc-or=mṛc-or  
 kṛṭ kṛṭ-at kṛṭ-aḥ kṛṭ=kṛṭ kṛṭ-a=kṛṭ kṛṭ=mṛṭ kṛṭ-or=mṛṭ-or ...

上の例からわかるように、kṛc, kṛṭ のような単独の語根の他、amta=amta, kṛc=kṛc のような語根の重複、ai=ḍai, kṛc=mṛc のような初頭子音の交替による語根の「<sup>こだま</sup> 重複 (echo reduplication)」、kṛc-at, kṛṭ-aḥ のような語根への派生接尾辞の付加、さらには kṛc-a=kṛc, kṛc-or=kṛc-or のような語根の重複形に派生接尾辞を付加してのさらなる派生など、さまざまな形態論的手段を用いて、もとの語根が表す意味に多様なニュアンスを付与している。こうした例をざっと見渡しただけでも、この語類がかなり複雑な形態音韻的体系をもつことが、推し量れよう。

ベンガル語の expressives の特徴について、読者にある程度の予備知識を持ってもらうために、以下、いくつかの例を挙げておきたい。下の例は、タラションコル・ボンダパッタエ<sup>6</sup>著・大西訳『船頭タリニ』(2016)に収められた、1930年代に書かれた3編の短編小説の中から取られている。最初の(1-3)~(1-7)は聴覚の印象に基づく雨音の描

<sup>3</sup> ‘Expressives have a greater freedom to combine the sound units already available in the Prosaic part of the language ... Expressives are not a sort of “pre-linguistic” form of speech, somehow half-way between mimicry and fully developed linguistic form. They are ... a sort of “post-linguistic” stage where the structural elements necessary for prosaic language are deliberately re-arranged and exploited for their iconic properties, and used for aesthetic communication.’ (Diffloth 1979: 57-58)

<sup>4</sup> Rabindranath Tagore は英語名で、ベンガル語名は rabīndranāth thākur /robīndronath thakur/。

<sup>5</sup> 以下 ‘-’ は接辞境界、‘=’ は音韻語 (重複も含む) 境界を示す (この境界設定は、筆者の言語学的分析に基づく)。なお、ベンガル語のアルファベットは、ṛ, a, i, u, e/æ, oi, o, ou, kṛ, ka, ki, ... と続く。

<sup>6</sup> Tarashankar Bandyopadhyay /tarāṣṅkor bāndopaddhāe/ (1894-1979) インド西ベンガル州ビルブム県出身の作家。

写、続く(1-8)~(1-12)は視覚の印象に基づく輝きの描写に用いられている expressives の例である。

[雨音の模倣]

(1-3) jalatøn re bapu, fara=din fara=rat **tip=tip jhip=jhip,**  
 迷惑 全く お前 一日中 一晩中 EXP EXP

hõ-be to tai bhalo-kore  
 起きる-FUT:3ORD なら そうして よく

hok re bapu, ta na fara=dinmeghla.  
 起きる+IMP:3ORD 全く お前 それ NEG 一日中 曇った

「たまったもんじゃないぜ、まったく。昼も夜も**ぽつぽつじとじと**。降るならざあっと降ってくれや。さもなきや、雲だけでたくさんだ！」  
 (「花環と白檀」)

(1-4) paʃ-er gach-guli-r pata-e pata-e jøl  
 側-GEN 木-DEF.pl:DIM-GEN 葉-LOC 葉-LOC 水

jhor-itech-e **ṭup=ṭap ṭup=ṭap.**  
 落ちる-IMPF-PRES:3ORD EXP EXP

「道の側に並ぶ樹々の葉からは、**ぽたぽた**、**ぽたぽた**と水滴が落ちていた。」  
 (「郵便配達夫」)

(1-5) akaʃ tøkxon durõtto durjog-e acchønno, jhõr-er  
 空 その時 手に負えない 悪天候-LOC 覆われた 嵐-GEN

moto bataʃ, ʃõnge=ʃõnge **jhõm=jhõm** kor-ia briʃti.  
 ような 風 それとともに EXP する-PF 雨

「空はその時凄まじい形相を呈していた。風は嵐のように吹き荒れ、それと共に雨が**ざあざあ**降り注いでいた。」 (「船頭タリニ」)

(1-6) le, mathali tu matha-e de.  
 取る+IMP:2INT 笠 2INT 頭-LOC 与える+IMP:2INT

**ṭipi=ṭipi** jøl bhari kharap.  
 EXP 水 とても 悪い

「さあ、この笠をかぶって、濡れないようにするんだ。小雨 (**ぽつぽつ**雨) が、一番身体にこたえるからな。」 (「船頭タリニ」)

(1-7) utola bataʃ-er ʃõnge olpo kichu=kkhõn **rimi=jhimi** briʃti  
 荒れた 風-GEN 一緒に 僅か 少しの間 EXP 雨

ho-ia ja-e, tar=põr tham-e.  
 起きる-PF しまう-PRES:3ORD その後 止む-PRES:3ORD

「<sup>つよどかぜ</sup>旋風に乗って、少しの間小雨（しとしと雨）が降り続いたかと思うと、パタリと止む。」（「船頭タリニ」）

上の5例のうち、最初の3例((1-3)~(1-5))は動詞を修飾する副詞的用法、あとの2例((1-6)~(1-7))は名詞の修飾的用法に用いられている。副詞的用法の場合、(1-5)のように、動詞/kor-/「する」の完了分詞 kor-ia（文語形）または kor-e（口語形）「~して」を取るものがふつうだが、(1-4)、(1-5)のようにそれを省略することもできる。

ここに挙げられた expressives の音韻形態的な特徴については、次のような一般化が可能だろう。

- (i) C<sub>1</sub>VC<sub>2</sub>を語根とした重複形の expressives は、終結点のある(telic)出来事が繰り返して起きる様子を表す((1-3)~(1-5))。いっぽう、C<sub>1</sub>iC<sub>2</sub>iを語根とした重複形の expressives は、性質形容詞と見なすことができる((1-6)~(1-7))。
- (ii) ここにあがっている expressives の語頭の t/jh は「雨音の一般的特質」を象徴している。t はひとつひとつの雨滴が地面に落ちる時の単純な音、jh はいくつもの雨滴が強く地面に跳ね返る時に出す騒がしい雨音を表す ((1-4) vs (1-5))。
- (iii) 音節末の p/m は「音の響き方ないし余韻」を象徴している。p は軽く跳ね返るような終わり方、m は重たい余韻・残響を伴った終わり方を表す ((1-4) vs (1-5))。
- (iv) 音節母音は、音の量、鋭さ、広がり、音が聞き手に喚起する印象などを表す。

音の量    ɔ > i (1-5) vs (1-3)

音の鋭さ    ɔ < i (1-5) vs (1-3)

音の広がり    u < a (1-4)

音が喚起する美的・好意的印象    i (1-7)

- (v) (1-7)の/r/による前接辞重複は、修辭的な表現で、口語では用いられない。

[光の反射（輝き）]

(1-8)    akaʃ    to    phoʔ=phoʔ-e,    ɕɔk=ɕɔk    kor-ch-e.  
          空    EMPH    EXP                    EXP                    する-IMPF-PRES:3ORD  
          「空は青く晴れ渡り、一点の翳りもない（ちらちら輝いている）。」  
          （「船頭タリニ」）

(1-9)    ʃe-din-kar    ʃe    alpɔna            aj    jhɔk=jhɔk  
          その-日-GEN    その    床絵    今日    EXP  
          kor-itech-e.

する-IMPF-PRES:3ORD

「先日描いた<sup>アルボナ</sup>床絵の（祭壇などに白い米粉で描かれた）聖なる模様が、まだぎらぎら輝いている。」（「花環と白檀」）

- (1-10) *raja kōrotol-er upor ſona-r nōth-khani*  
 白い 掌-GEN 上に 金-GEN 耳飾り-DEF.SOLID:DIM  
*roudrabha-e jhōk=mōk kor-itech-e.*  
 陽光の照り-LOC EXP する-IMPF-PRES:3ORD  
 「白い掌の上には黄金の鼻飾りが、陽の光を浴びてぎらぎら輝いている。」  
 (「船頭タリニ」)

- (1-11) *jol-hin mœurakkhi-r baluka-mœ gōrbho*  
 水-なしの 川の名-GEN 砂-いっぱい の 河床  
*griff-er prōkhor roudr-e jhik=mik kor-itech-e.*  
 夏-GEN 強烈な 陽光-LOC EXP する-IMPF-PRES:3ORD  
 「水が涸れたモユラッキの砂だらけの河床は、夏の烈しい陽射しにきらきら輝いている。」 (「船頭タリニ」)

- (1-12) *godhuli-r alo jhiki=miki kor-itech-e.*  
 黄昏時-GEN 光 EXP する-IMPF-PRES:3ORD  
 「黄昏時の光がちらちら光っている。」 (「花環と白檀」)

上の5例のすべてで、expressives は、補助動詞/*kor-*「する」と組み合わせさせて、動詞述語文の述語として用いられている。ただし、最後の(1-12)に挙げた/*jhiki=miki*/は、(1-6)~(1-7)の例と同じく、性質形容詞として機能することもできる。これらの例から、音節構造については、上で述べた(i)が確認できる。それに加え、次のような一般化が可能だろう。

- (vi) 音節初頭の *c/jh* は光の反射が与える視覚的な印象の一般的な特質を象徴している。*c* に比べ、*jh* のほうが輝きの印象が強い ((1-8) vs (1-9)~(1-12))。
- (vii) 音節末の *k* はある程度の余韻を残す終わり方 (ここでは輝きの残像) を表す ((1-8)~(1-12))。
- (viii) 併重復の *m* は、内的な深さ (ここでは輝きがもつ深み) を表す ((1-10)~(1-12))。
- (ix) 音節母音は、反射する光の量、鋭さ、見る人に喚起する印象などを表す。

光の量  $o > i$  (1-8)~(1-10) vs (1-11)~(1-12)

光の鋭さ  $o < i$  (1-8)~(1-10) vs (1-11)~(1-12)

音が喚起する美的・好意的印象 *i* (1-12)

以上の2セットの例から、音節構造や音節の中の特定の位置に置かれた子音や母音のタイプによって、個々の expressive の意味がかなりの程度一般化できることがおわかりいただけたと思う。以下の第3~5節で、この一般化をもう少し推し進めてみることにしよう。

## 2. ベンガル語の音韻体系—背景として

第3～5節の議論の前提として、この節では、ベンガル語の音韻体系や音節構造について、簡単にまとめておくことにする。

### 2.1. 母音

ベンガル語は7つの母音音素を持つ。

表1 ベンガル語の母音音素

i		u
e		o
æ	a	ɔ

音韻的に、母音の長短の区別はない。また、すべての母音に対応する鼻母音音素が存在する。

第1節の例で見たように、低母音の/a/と高母音の/i/, /u/の間には、その発生の音量の多寡と、それが表す聴覚的・視覚的現象のエネルギー量との間に、対応関係があるように思われる。また、狭母音/i/は、鋭さの印象を表すことがある。これに対し、もっとも広い母音/a/は、狭母音/i/, /u/との対照で、現象の広がり表現する。/i/（および/u/）はまた、指小辞（diminutive）の一部として、美的・好意的印象を表すためにも用いられる。

/æ/は歴史的に新しく発達した母音で、ベンガル語の土俗語彙（2.3参照）の中では比較的頻度が少ない。（英語からの借用語彙によく使われるが、サンスクリット語起源の語彙にはまったく用いられない。）しかし、expressivesでは、不快感や不自然な印象を与える現象を象徴する音として、よく用いられる。

二重母音は、次の25種類である。

#### (2-1) ベンガル語の二重母音：

/ɔa/, /œ/, /ɔo/, /æe/, /æo/, /ae/, /ao/, /ai/, /au/  
 /ea/, /eo/, /ei/, /eu/, /oa/, /oe/, /oi/, /ou/  
 /ia/, /ie/, /io/, /iu/, /ua/, /ue/, /uo/, /ui/

### 2.2. 子音

他のインド＝アリア系言語と同様、下の5つの調音点（両唇、歯、後部歯茎反舌、硬口蓋、軟口蓋）の閉鎖音（stops）に関し、それぞれ有声・無声、有気・無気の対立

がある。鼻音に関しては、文字//ŋ/, //ɲ//は存在するが、それらは音韻的には/n/に同化していると思倣することができる。

表2 ベンガル語の子音音素

	両唇	歯	後部歯茎 (反舌)	硬口蓋	軟口蓋	声門
無声無気	p	t	ʈ	c	k	
無声有気	ph	th	ʈh	ch	kh	
有声無気	b	d	ɖ	j	g	
有声有気	bh	dh	ɖh	jh	gh	
鼻音	m	n			ŋ	
摩擦音		s		ʃ		h
接近無気		r	ɽ			
接近有気			ɽh			
側面		l				

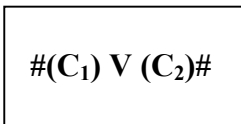
### 2.3. 音節構造

語彙タイプにより、異なった構造をとる。

- (i) deshi (土俗語彙)
- (ii) tatbhava (サンスクリット語源・変容)
- (iii) tatsama (サンスクリット語源・そのまま)
- (iv) 英語からの借用
- (v) ペルシャ語・アラビア語からの借用
- (vi) 他の言語からの借用

Expressives は、基本的に、deshi (土俗語彙) の音韻構造を持つ。

#### (A) 土俗語彙 (単音節)



ただし：

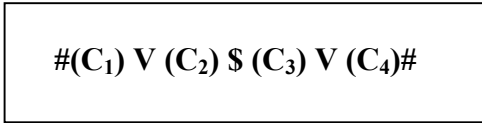
- C<sub>1</sub> = /ŋ/, /s/, /r/, /ɽh/ 以外の C
- C<sub>2</sub> = /ɖ/, /ɖh/, /s/, /h/, /ɽh/ 以外の C

Expressives 語彙の場合、この上、さらに下のような制限が加わる：

C<sub>1</sub> には /d/, /j/, /l/ が用いられた例がない。

C<sub>2</sub> の位置には、基本的に有気または有聲の阻害音は立たず<sup>7</sup>、/t/ も用いられない。  
 即ち、C<sub>2</sub> は、次の子音に限られる：/p/, /t/, /c/, /k/, /m/, /n/, /ŋ/, /ʃ/, /r/, /r̄/, /l/

(B) 土俗語彙 (2 音節)



- C<sub>1</sub> = /ŋ/, /s/, /r̄/, /r̄h/ 以外の C
- C<sub>3</sub> = /s/ 以外の C
- C<sub>2</sub> = /d̄h/, /th/, /dh/, /ph/, /bh/, /r̄/, /r̄h/ 以外の C
- C<sub>4</sub> = /d/, /d̄h/, /s/, /r̄h/ 以外の C

(1-2)に見るように、expressives の語根はほとんどが単音節である。2 音節構造のものも少数見られるが、それらは単音節の語根からの派生として分析できるように思われるので、その代表例は、派生を扱う第 4 節で扱うこととする。その詳細な分析は将来の課題としたい。

2.4. アクセント

アクセントは、語の最初の音節にある。この音節は、一般に、低いピッチで強く発音される。

第 1 音節の卓立を示す他の重要な現象として、下のようなものがある。

- (A) 低母音/æ/ は必ず第 1 音節にあり、また/o/ も第 1 音節に現れる確率がたかい。
- (B) /o/ は 2 音節以上の語の、最後の音節には、決して現れない。最終音節では、/o/ と /o/ の対立は中立化され、常に/o/で現れる ((2-2a), (2-2b))。詩では、脚数を揃えるため、子音で終わる最終音節に/o/ を補って読むことがある((2-2c))。

(2-2a)	/koto/	[koto]	いくつ/いくら
(2-2b)	/patro/	[patro]	容器
(2-2c)	/gɔgon/ [gɔgon] ~ /gɔgono/	[gɔgono]	空 (文語)

(C) 第 2 音節にある鼻音化は、口語では第 1 音節に移動する傾向がある。

(2-3a)	//ātmā//	/at\$ā/ [attā]	魂
		/āt\$ā/ [ātta]	
(2-3b)	//ātmīya//	/at\$fi\$o/ [attīō]	親戚
		/āt\$fi\$o/ [ättio]	

<sup>7</sup> ただし、C<sub>1</sub> が有聲阻害音の場合に、ときに C<sub>2</sub> が順行同化を起こして有聲の変異音として現れることがある。cf. giʃ=giʃ ~ gij=gij (3-42)。



### 3. Expressives の語根の音節構造による分類

ベンガル語の expressives の語根は、ほとんどが単音節である (2.3 参照)。このうち、語根の音節構造が  $C_1VC_2$  のものは終結点のある(telic)出来事を表し、それに対して音節構造が CV のものは、明示的な終結点のない(atelic)出来事ないし状態を表すのに用いられる (第1節(i)参照)。また、これらの語根を重複することにより、出来事の継起、ないし状態の継続を表すことができる。

語根によっては重複形のないものもあるし、逆に重複形のみしかない (語根が単独で現れることがない) ものもある。 $C_1VC_2$  タイプの語根 (V が鼻母音であるものを含む) と、CV タイプの語根のうち中核母音が鼻母音であるものに関しては、単独形、重複形、あるいはどちらの形式も可能なもの、の3種類がある。いっぽう、中核母音が鼻母音でない CV タイプの語根に関しては、単独形のみで起きるものは存在しない。

表3 語根の音節構造による分類

	一時的	継起的・継続的
明示的な終結点のない(atelic) 出来事ないし状態	CV	CV=CV
	∅	CV=CV
	$C\tilde{V}$	∅
	$C\tilde{V}$	$C\tilde{V}=C\tilde{V}$
	∅	$C\tilde{V}=C\tilde{V}$
終結点のある (telic)出来事	$C_1VC_2$	∅
	$C_1VC_2$	$C_1VC_2=C_1VC_2$
	∅	$C_1VC_2=C_1VC_2$

以下、語根を(A) CV タイプ、(B)  $C\tilde{V}$  タイプ、(C)  $C_1VC_2$  タイプの三つにわけ、それぞれについて例を示すことにする。

#### 3.1. CV タイプ

CV タイプの語根のうち、単独形と重複形を持つ例をまず挙げる。

- (3-1) kukur-ṭa            gheu(=gheu)    kor-e   ḍak-lo.  
 犬-DEF                EXP                する-PF   鳴く -PAST:3ORD  
 「その犬はワン（ワン）と吠えた。」

犬の吠え声が、1 回限りの場合は単独形、2 回以上継続する場合は重複形を用いている。

しかし、CV タイプの語根の多くは、内在的に継起的な出来事か継続的な状態を表すのに用いられるため、重複形しか存在しない。たとえば、人間の笑い声・泣き声、風の音などの聴覚的な印象を表す、下のような例がある。

[人間の笑い声]

- (3-2) **ha=ha/hi=hi/he=he/hæ=hæ/ho=ho** kor-e hãʃ-ch-e.  
EXP する-PF 笑う-IMPF-PRES:3ORD  
「彼（女）は、・・・と笑っている。」

これらの笑い声には、次のような特徴がある。

- ha=ha/ho=ho** (大人、開放的、大きな声)  
**hi=hi** (子どもたち、可愛らしい)  
**he=he** (皮肉をこめた、乱暴な)  
**hæ=hæ** (不自然な、乱暴な)

いずれも、呼気を象徴する/h/で始まり、母音のタイプによってその笑い声の量、鋭さ、広がり、音が聞き手に喚起する印象を表している（第1節(iv)参照）。/a/, /o/が大きな音量の大人の笑い声で、前者のほうがより開放的。それに対し、/i/は音量が小さく鋭い、子どもの笑い声で、好意的な印象を喚起する。これに対し、/e/や/æ/、特に後者は、不自然で乱暴な印象を与える。

笑い声がこのように単母音で表されるのに対し、泣き声は下のように二重母音で表される。

[人間の泣き声]

- (3-3) **hau=hau/hau=mau** kor-e kãd-ch-e.  
EXP する-PF 泣く-IMPF-PRES:3ORD  
「彼（女）はわんわん泣いている。」

第1節で見たように、/m/による併重複は、より深い音ないし印象を表現するのに用いられる。4.2 参照。

(3-1)で挙げたように、犬の鳴き声も二重母音で表される。(3-1)の/ghœu/がのどの奥から出る濁った吠え声を表すのに対し、下の/bheu/は、振動を伴う低い吠え声を模倣する。

- (3-4) **kukur-ʔa** **bheu=bheu** kor-e ɖak-lo.  
犬-DEF EXP する-PF 鳴く-PAST:3ORD  
「その犬はワンワンと吠えた。」

吹く風の鋭い音は/h/で始まり、狭母音の/u/によって表されるが、同時にこの expressive は(3-5b)のように寒さが身体の中を走る体感を象徴的に表すのにも用いられる。

[風の音・寒さの体感]

(3-5a) **hu=hu** haoa di-cch-e.  
EXP 風 与える- IMPF-PRES:3ORD

「風がひゅうひゅう吹いている。」

(3-5b) **thanda-r** jonno **hu=hu** kor-e kâp-ch-i.  
寒さ-GEN ために EXP する-PF 震える- IMPF-PRES:1

「寒さのために私はぶるぶる震えている。」

以下、実際の音の模倣ではなく、体感や視覚的印象を表す CV 構造の expressives の例をあげる。

まず、体感を表す expressives の例として、押さえがたい嫌悪感を表す下のような表現がある。

(3-6) amar ga ghrina-e **ri=ri** kor-ch-e.  
1sg-GENbody 嫌悪-LOC EXP する-IMPF-PRES:3ORD

「私の身体中が、嫌悪のあまり震えるようだ。」

子音の/r/はその嫌悪感が身体中に響き渡る余韻のような感覚を表し、母音の/i/はその感覚の鋭さを表現する。

一方、下の例は、他人の呆然とした表情が見る人にもたらず印象を表現している。

(3-7) **pæ=pæ** kor-e taki-e ach-e.  
EXP する-PF 見つめる-PF いる-PRES:3ORD

「彼は**呆然と**見つめている。」

子音の/p/は、光景がもたらず瞬間的な印象を、また母音の/æ/は、相手の表情が見る人に与える不自然感・違和感を表現する。

続けて、下の例は、茫々と広がる野原の様子を与える印象の客観的表現であるとともに、その印象が引き起こす主観的な空虚感をも併せて表現している。

(3-8) **maṭh** **dhu=dhu** kor-ch-e.  
野 EXP する-IMPF-PRES:3ORD

「野原が**茫々と**広がっている（それを見ると**茫と**した感じがする）。」

下の2例は、いずれも情景が視覚的に与える印象を表現している。最初の例は火が燃え上がる様子、2番目の例は水が溢れんばかりに湛えられている様子で、いずれも動画的な印象を伝えるために、二重母音が用いられている。

(3-9) **agun** **dau=dau** kor-ch-e.  
火 EXP する-IMPF-PRES:3ORD

「火がぼうぼうと燃え上がっている。」

- (3-10) **nod**-te jol      **thoi=thoi**      kor-ch-e.  
 川-LOC 水      EXP      する-IMPF-PRES:3ORD  
 「川には水が溢れんばかりにいっぱいである。」

### 3.2. C□ タイプ

C□ タイプの語根は、C<sub>1</sub>VC<sub>2</sub> タイプの語根（特に最後の C が鼻音のタイプ）と同じく、1 回きりの出来事を表すために単独形で用いられるものもある。ただしこの場合、C<sub>1</sub>VC<sub>2</sub> タイプの *expressives* とは異なり、その出来事の終結点は明示されていない。

- (3-11) **chō**      mer-e      tul-e      ni-lo.  
 EXP      叩く-PF 持ち上げる-PF      取る-PAST:3ORD  
 「（鳶が）さっと（獲物を）さらった。」

- (3-12) **dhā**      kor-e      kōtha-ṭa      bol-e      phel-lo.  
 EXP      する-PF 言葉-DEF      言う-PF 捨てる-PAST:3ORD  
 「彼はうっかり口をすべらせてそのことを言ってしまった。」

以下は、単独形と重複形の両方を持つ *expressives* の例である。

まず、蜜蜂が羽音とともに部屋に入る瞬間を捉えた表現と、継続して飛び回るさまを描写した表現。

- (3-13a) **bhrōmor-ṭa**      **bō**      kor-e      ghōr-e      ḍhuk-lo.  
 蜜蜂-DEF      EXP      する-PF 部屋-LOC      入る-PAST:3ORD  
 「蜜蜂が（ぶんという音とともに）部屋に飛び込んだ。」

- (3-13b) **bhrōmor-ṭa**      **bō=bō**      kor-e      ghur-ch-e.  
 蜜蜂-DEF      EXP      する-PF 回る-IMPF-PRES:3ORD  
 「蜜蜂がぶんぶん飛び回っている。」

続けて、サイレンの音が、単独で聞かれる場合と続けて何度も聞かれる場合の対照を表した例。

- (3-14) **karkana-e**      **bhō(=bhō)**      kor-e      ṣiṭi      baj-lo.  
 工場-LOC      EXP      する-PF サイレン      鳴る-PAST:3ORD  
 「工場でサイレンがぼー（ぼー）っと鳴った。」

音節初頭の /b/, /bh/ は、このような振動の伴った低い音を表現する ((3-4) を参照)。/bh/ のほうが、より深く響き渡る音を表す。これに対し、無声の唇音 /p/ は、瞬間的な視覚的印象を表す ((3-7)、(3-26) 参照) が、実際の音を表すことはない。( /ph/ は、唇などから出る軽い摩擦音を表すことがある。(3-38) 参照。)

1 本の矢が音を立てて飛ぶ場合と、風が音を立てて吹きすさぶ状況の表現:

(3-15a) **fã** kor-e tir-ta chuṭ-e gæ-lo.  
 EXP する-PF 矢-DEF 走る-PF 行く-PAST:3ORD  
 「矢がひゅっと (目の前を) 走り過ぎた。」

(3-15b) **fã=fã** kor-e haoa di-cch-e.  
 EXP する-PF 風 与える-IMPF-PRES:3ORD  
 「風がひゅうひゅう鳴っている。」

音節初頭の摩擦音 /ʃ/ は、/h/ ((3-2), (3-3), (3-5) 参照) と同じく摩擦を伴う音を表現するが、/ʃ/ のほうがより抵抗感のある音を表すようである。

以下の例は、実際の音というよりは、水が吸い取られる・なくなる情景が視覚的に与える印象を表現している。1 度に吸い取る状況は単独形、継続的に乾いていく状況には重複形を用いる。

(3-16a) **cõ** kor-e jol fuṣ-e ni-lo.  
 EXP する-PF 水 吸う-PF 取る-PAST:3ORD  
 「彼は水をしゅっと吸い込んだ。」

(3-16b) **cõ=cõ** kor-e jol fuki-e gæ-lo.  
 EXP する-PF 水 乾く-PF 行く-PAST:3ORD  
 「水がみるみるうちに (しゅるしゅると) 乾き切った。」

以下は、重複形のみ *expressives* の例である。

[動物の鳴き声]

(3-17) **cī=cī** kor-e ghoṛa ḍak-ch-e.  
 EXP する-PF 馬 鳴く-IMPF-PRES:3ORD  
 「馬がひひんと鳴いている。」

(3-18) **jhī=jhī** poka  
 EXP 虫  
 「コオロギ (じーじー虫) 」

[人やものが継続的に立てる音]

(3-19) **briddho** lok-ṭi **gõ=gõ** kor-e aoaj kor-ch-e.  
 年寄りの 人-DEF:DIM EXP する-PF 音 する-IMPF-PRES:3ORD  
 「年寄りのがのどの奥からうめくような音を立てている。」

- (3-20) **fāi=fāi** tir      chur-ch-e.  
 EXP    矢            射る-IMPF-PRES:3ORD  
 「矢を次々に（しゅうしゅう）射っている。」

[継続的に立てる音と、その結果が与える視覚的印象を表現した例]

- (3-21a) **fō=fō** kor-e    haoa    di-cch-e.  
 EXP    する-PF 風            与える-IMPF-PRES:3ORD  
 「風がひゅうひゅう鳴っている。」 ((3-15b)参照)

- (3-21b) **fō=fō** kor-e    bōnna    bar-ch-e.  
 EXP    する-PF 洪水          増える-IMPF-PRES:3ORD  
 「洪水がずんずん水嵩を増している。」

[視覚的印象の例]

- (3-22) dupur    rod-e                    **jhā=jhā**            kor-ch-e.  
 正午    陽光-LOC            EXP                    する-IMPF-PRES:3ORD  
 「正午は、陽光でじりじり灼けつくようだ。」

(1-9)~(1-12)にあるように、/jh/は強い光の反射を表すのに用いられる。

最後に、視覚的印象とそれが喚起する体感、さらには内的な感覚のみ、の両方に使われる例を挙げる。

- (3-23a) math    **khā=khā**            kor-ch-e.  
 野        EXP                    する-IMPF-PRES:3ORD  
 「野原は人気がなく虚ろに広がっている。」

- (3-23b) ma-er    buk    chele-r            jonno    **khā=khā**            kor-e.  
 母-GEN 胸      子供-GEN          ため    EXP                    する-PRES:3ORD  
 「母の胸は、（死んだ）子供のために、虚ろである。」

### 3.3. C<sub>1</sub>VC<sub>2</sub>タイプ

ベンガル語の *expressives* には、C<sub>1</sub>VC<sub>2</sub> 構造を持った語根が最も多い。

以下、基本的に語末の子音 C<sub>2</sub> に着目しながら、この類の *expressives* の例を論じる。

2.3 で述べたように、C<sub>2</sub> の位置には、有気または有聲の阻害音は立たず、/h/ も用いられない。C<sub>2</sub> は、次の子音に限られる。

閉鎖音 : /p/, /t/, /c/, /k/

摩擦音 : /ʃ/

流音 : /r/, /ɾ/, /l/

鼻音 : /m/, /n/, /ŋ/

### 3.3.1. C<sub>2</sub>が閉鎖音の場合

先に述べたように、/t/で終わる expressive はない。何の余韻もない、出来事の終結だけを示す最も中立的な語末音は、/ɔ/であると思われる。

単独形と重複形を持つ例 ((3-24))、ふつう重複形のみを用いる例 ((3-25))、ふつう単独形のみを用いる例 ((3-26), (3-27)) を挙げる。

(3-24) **kɔṭ(=kɔṭ)** kor-e kaṭ-lam.  
 EXP する-PF 切る-PAST:1  
 「(硬いものを) こと (こと) っと切った。」

(3-25) **khɔṭ=khɔṭ** kor-e hāṭ-ch-e.  
 EXP する-PF 歩く-IMPF-PRES:3ORD  
 「(硬い靴などで) こつこつと歩いた。」

(3-26) **ḍal theke pɔṭ** kor-e phul chīṭ-e phel-lo.  
 枝 から EXP する-PF 花 千切る-PF 捨てる-PAST:3ORD  
 「枝から花をぱっと千切り取った。」

(3-27) **mɔṭ** kor-e ḍal bheṅ-e phel-lo.  
 EXP する-PF 枝 折る-PF 捨てる-PAST:3ORD  
 「ぽきっと枝を折った。」

これら/t/で終わる例を、/c/で終わる次のような例と比較すると、この2つの子音の持つニュアンスの違いがはっきりする。

(3-28a) **kɔc(=kɔc)** kor-e kaṭ-lam.  
 EXP する-PF 切る-PAST:1  
 「(柔らかいものを) 一度 (何度も) 切った。」

(3-28b) **kɔc=kɔc** kor-e cibo-cch-i.  
 EXP する-PF しゃぶる-IMPF-PRES:1  
 「(柔らかいものを) しゃぶっている。」

(3-29) **mɔc=mɔc** kor-e hāṭ-ch-e.  
 EXP する-PF 歩く-IMPF-PRES:3ORD  
 「(底の柔らかい靴で) きゅっきゅっと歩いた。」

上の例に見るように、/c/は、柔らかいものを切ったりしゃぶったり、あるいは地面に押しつけてから離したりする時に残る、粘着性の余韻を表している。

また、(3-24)~(3-27)、(3-28)~(3-29)の音節初頭子音に着目すると、ものをナイフなどの鋭いもので切るときの音は/k/、硬いもの同士が当たって立てる音には/kh/が使われている。またものを折る時やものに当たる時の軽い音や抵抗感には/p/、重たい音や抵抗感を表すのには/m/を用いる。

以下、/k/ と /p/で終わる expressives を取り上げる。

第1節の (vii)で述べたように、/k/は（上の/c/と違って硬質の）余韻を残す終わり方を示す。

(3-30) fukuno kath die tɔk(=tɔk) kor-e aghat kor-lo.  
 乾いた 木片 で EXP する-PF 打撃 する-PAST:3  
 「乾いた木片で、ぴた（ぴた）と叩いた。」

(3-31a) deɔal-e matha thɔk kor-e lag-lo.  
 壁-LOC 頭 EXP する-PF 当たる-PAST:3  
 「壁に頭をこつんとぶつけた。」

(3-31b) thɔk(=thɔk) kor-e dɔroja-e dhakka mar-lo.  
 EXP する-PF 扉-LOC 打撃 殴る-PAST:3ORD  
 「こつ（こつ）と扉を叩いた。」

いっぽう、第1節の (iii)で述べたように、/p/は軽く跳ね返るような終わり方を表す((1-3), (1-4)も参照)。

(3-32) tɔp=tɔp/ɕip=ɕip kor-e briɕti por-ch-e.  
 EXP する-PF 雨 落ちる-IMPF-PRES:3ORD  
 「雨がぽつぽつ降っている。」

上の例で見ると、音節初頭子音の/t/は軽い打撃、/th/はやや強い打撃を表している。これよりも強い打撃や重たい音を表すには/dh/が用いられる。

(3-33) dhɔk(=dhɔk) kor-e tel khe-e phel-lo.  
 EXP する-PF 油 飲む-PF 捨てる-PAST:3ORD  
 「ごくり（ごくり）と油を飲み干した。」

このように、ふつうの水ではなく、密度の濃い液体を飲むときの音やその印象を表現する。

歯音の/th/、/dh/は、上にあげた一連の反舌音とはまったく異なり、下の例に見るように、視覚的・触覚的に、柔らかく密度の濃い印象を表出する。

(3-34) kada thɔk=thɔk kor-ch-e.  
 泥 EXP する-IMPF-PRES:3ORD



「泥が**ぼたぼた**している。」

- (3-35a) **thɔp** kor-e æk tal kada phel-lo.  
 EXP する-PF 一 塊 泥 捨てる-PAST:3ORD  
 「一塊の泥を**ぼとんと**投げ捨てた。」

- (3-35b) briddho lok-ti **thɔp=thɔp** kor-e hāt-ch-e.  
 年老いた 人-DEF:DIM EXP する-PF 歩く-IMPF-PRES:3ORD  
 「その老人は**よたよた**歩いている。」

- (3-36) **dhɔp** kor-e mejhe-te boʃ-e por-lo.  
 EXP する-PF 床-LOC すわる-PF 落ちる-PAST:3ORD  
 「彼（女）は床に**どさっと**座り込んだ。」

### 3.3.2. C<sub>2</sub>が摩擦音の場合

摩擦音/f/で終わる expressives は、下のように、擦れるような音を表現する。

- (3-37) dāt **kif=kif** kor-e bol-lo.  
 歯 EXP する-PF 言う-PAST:3ORD  
 「**きりきり**と歯軋りしながら言った。」

- (3-38) ʃap-ʈa **phōʃ=phōʃ** kor-ch-e.  
 蛇-DEF EXP する-IMPF-PRES:3ORD  
 「その蛇は**しゅっしゅっ**と音を立てている。」

下の例は、打った時の具体的な音というよりは、その効果が単なる打撃ではなく皮膚を擦るような効果をもつことを示唆する。

- (3-39) **ʈhaʃ(=ʈhaʃ)** kor-e cɔʀ mar-lo.  
 EXP する-PF 平手 打つ-PAST:3ORD  
 「彼（女）は、**ぴしゃり（ぴしゃり）**と平手で打った。」

下の表現は、視覚的・触覚的に、表面と擦れ合うような感覚を示していよう。

- (3-40) phol-ʈa paka ho-e **ʈɔʃ=ʈɔʃ** kor-ch-e.  
 実-DEF 熟した なる-PF EXP する-IMPF-PRES:3ORD  
 「その実は熟して**今にも蜜が溢れ出**そうだ。」

- (3-41) **thəʃ=thəʃ**      maʈi      die      kaj      ho-e      na.  
 EXP                      土              で              仕事              なる-PRES:3ORD              NEG  
 「じゅくじゅくの土では役に立たない。」

下の例は、狭い空間に犇めく人々が互いに擦れ合うような感覚を表している。この例では、音節初頭子音が/g/であるため、音節末の/j/も有声化して/j/と発音されることがある。

- (3-42) **lokjɔn-e**              **ghɔr-ʈa**              **giʃ=giʃ/gij=gij**      kor-ch-e.  
 人々-LOC              部屋-DEF              EXP                      する-IMPF-PRES:3ORD  
 「人々でその部屋はぎしぎしになっている。」

### 3.3.3. C<sub>2</sub>が流音の場合

/l/で終わる expressives は、滑らかな音や流れるような様子・動き、またそれによって喚起される印象を表現する。

- (3-43a) **nodi-r**      jəl      **kəl=kəl chəl=chəl**      kor-e      boi-ch-e.  
 川-GEN 水              EXP              EXP                      する-PF 流れる-IMPF-PRES:3ORD  
 「川の水は心地よく、さらさらと流れている。」
- (3-43b) **pakhi-ra** **kəl=kəl** kor-e      ɖak-ch-e.  
 鳥-pl              EXP              する-PF 鳴く-IMPF-PRES:3ORD  
 「鳥たちは心地よい声で鳴いている。」
- (3-43c) **ta-r**                              **cokh**      **chəl=chəl**      kor-e      uʈh-lo.  
 3ORD.INVIS-GEN                      目              EXP                      する-PF 上がる-PAST:3ORD  
 「彼の目は涙でいっぱいになった。」
- (3-44) **mee-ra**              **khil=khil**              hāʃ-ch-ilo.  
 女の子-pl              EXP                      笑う-IMPF-PAST:3ORD  
 「女の子たちは、けらけらと笑っていた。」

(3-44)の/khil=khil/は、子供や女性の、自然で屈託のない笑い声の形容に用いられる。次のような、重複派生による形容的表現 (4.1 参照) も、よく用いられる。

- (3-45) **jhəl=jhəl-e**      jama  
 EXP                      服  
 「だらっとした/垂れ下がった服」

- (3-46) **dɔl=dol-e**      bhat  
 EXP                      飯  
 「柔らかすぎる飯」

これに対し、/ɾ/で終わる expressives は、流れや動きに対する抵抗感、違和感を表現する。

- (3-47) bali      dhuk-ech-e                      bole      cokh      **kɔr=kɔr**  
 砂      入る-PF-PRES:3ORD                      ので      目      EXP  
 kor-ch-e.  
 する-IMPF-PRES:3ORD  
 「砂が入ったので、目の中が **ごろごろ** している。」

下の2つの例は、(3-43c)と違って、とどめようとする力を押し切って涙が溢れ出るさまを表している。(3-43a), (3-43b)とも対照的である。

- (3-48) **jhɔr=jhɔr**      kor-e      kēde      phel-lo.  
 EXP                      する-PF 泣く-PF 捨てる-PAST:3ORD  
 「(じゃあじゃあ) とめどなく涙を流して泣き崩れた。」

- (3-49) cokh      theke      jɔl      **dɔr=dɔr**      dhara-e      poɾ-ch-ilo.  
 目      から      水      EXP                      流れ-LOC      落ちる-IMPF-PAST:3ORD  
 「目から涙が (どぼどぼ) 奔流となって流れ落ちた。」

これに対し、反舌音の/ɽ/で終わる expressives は、濁った強い残響を表現する。

- (3-50) biral-ɽa o-r                      kol-e      bos-e                      **ghɔɽ=ghɔɽ**  
 猫-DEF 3ORD.FAR-GEN 膝-LOC すわる-PF                      EXP  
 kor-ch-e.  
 する-IMPF-PRES:3ORD  
 「その猫は、彼女の膝にすわって、喉を **ごろごろ** 言わせていた。」

- (3-51) nodi-r      ban-er                      **huɽ=huɽ**                      **duɽ=duɽ**                      ʃɔbdo  
 川-GEN 洪水-GEN                      EXP                      EXP                      音  
 「川の洪水の (兩岸を削る) **びしゃびしゃ**、**どしゃどしゃ**いう音」

### 3.3.4. C<sub>2</sub>が鼻音の場合

鼻音で終わる expressives は、調音点の違いによって、異なったタイプの残響を表現する。

まず、/m/は重くうちにこもるような残響である。

- (3-52) **jhəm=jhəm** kor-e briʃti poɾ-ch-e.  
 EXP する-PF 雨 落ちる-IMPF-PRES:3ORD  
 「**ざんざん**と雨が降っている。」

- (3-53) **gəmbhir** aoaj-e **ghər-ʔa** **gəm=gəm** kor-ch-e.  
 深い 音-LOC 部屋-DEF EXP する-IMPF-PRES:3ORD  
 「**深い音**で部屋は**どよむ**ように響いている。」

実際の音でなく、身体の中に重く響くような体感も表現する。

- (3-54) **bhə-e** ga **chəm=chəm** kor-ch-e.  
 恐怖-LOC 身体 EXP する-IMPF-PRES:3ORD  
 「**恐怖**に**身体の中**が**震えた**つようだ。」

いっぽう、/n/は尾を曳くような残響を表す。

- (3-55) **ʃən=ʃən** kor-e haoa boi-ch-e.  
 EXP する-PF 風 吹く-IMPF-PRES:3ORD  
 「**風**が**しゅうしゅう**吹いている。」

- (3-56) **ghuŋur-er** **ʔhun=ʔhun** aoaj ʃon-a gæ-lo.  
 足鈴-GEN EXP 音 聞く-VN 行く-PAST:3ORD  
 「**足鈴**の**しゃんしゃん**いう音が聞こえた。」

/ŋ/も尾を曳くような残響を表すが、下の例に見るように、こちらのほうが/n/より長く強い響きを表す。

- (3-57) **ʔhəŋ** kor-e ʔaka-ʔa **chūr-e** **phel-e**  
 EXP する-PF お金-DEF 投げる-PF 捨てる-PF  
 di-lo.  
 与える-PAST:3ORD  
 「**彼（女）は、ちゃりん**とお金を投げ出してやった。」

(3-58) nojor-er            taka-e            **ṭhuṅ=ṭhuṅ**            ṣobdo    uṭh-ch-ilo.  
 拝謁-GEN            お金-LOC            EXP            音            立つ-IMPF-PAST:3ORD  
 「拝謁の銀貨のちやりんちやりんいう音が響いていた。」

(3-59) **ḍhṅ=ḍhṅ**            kor-e    ghṅṅṅa    baj-lo.  
 EXP            する-PF 鐘            鳴る-PAST:3ORD  
 「ごんごんと鐘が鳴った。」

#### 4. 派生によって生じる expressives

この節では、expressives の3つのタイプの派生を扱う。

- (1) 接尾辞の付加
- (2) 母音交替による重複
- (3) 併重複

##### 4.1. 接尾辞の付加による派生

3.3 で論じた通り、ベンガル語では  $C_1VC_2$  タイプの expressives が最も多い。これらの expressives の多くは、下にあげるような、接尾辞の付加（プラス重複）という形態的な手段によって、さらなる expressives を派生することができる。

表4 Expressives の派生

	一時的	継続・継起的
乱暴で突然の	$C_1VC_2-at$	
突然の（摩擦を伴う）	$C_1VC_2-aʃ$	
突然の（重い余韻を伴う）	$C_1VC_2-am/um$	
速い		$C_1V_1C_2-a=C_1V_1C_2$
長時間にわたる		$C_1V_1C_2-V_2r=C_1V_1C_2-V_2r$
性質形容詞		$C_1V_1C_2=C_1V_1C_2-e^*$
指小表現		$C_1iC_2i=C_1iC_2i$ $C_1uC_2u=C_1uC_2u$

\*語幹の  $V_1$  が低母音の場合、重複された  $V_1$  は、接尾辞 **-e** によって引き起される母音同化により中母音になる。4.1.4 参照。

4.1.1. C<sub>1</sub>VC<sub>2</sub>-at

この接尾辞は、一般に、ある種の余韻を表現する *expressives* の語根に付いて、その余韻が突然断ち切れることを表現する。興味深いのは、この派生形が、非派生形では許されない/t/で終わっていることである。

- (4-1a) **kɔc(=kɔc)** kor-e kaɬ-lam.  
 EXP する-PF 切る-PAST:1  
 「(柔らかいものを) 一度(何度も) 切った。」

- (4-1b) **kɔc-at** kor-e kaɬ-lam.  
 EXP する-PF 切る-PAST:1  
 「(柔らかいものを) いきなり切った。」

(4-1a)は(3-28a)の繰り返しである。語根の/kɔc/に、派生語尾/-at/が付いて、「突然、乱暴に」の意を表す。

さらに2つ、例を挙げる。

- (4-2a) **ʃɔɾ=ʃɔɾ** kor-e jhol kha-cch-e.  
 EXP する-PF 汁 飲む-IMPF-PRES:3ORD  
 「彼(女)はしゅるしゅると汁を飲んでいる。」

- (4-2b) **ʃɔɾ-at** kor-e mukh-e jhol ɬan-ch-e.  
 EXP する-PF 口-LOC 汁 引く-IMPF-PRES:3ORD  
 「彼(女)は、いきなりしゅるっと汁を飲み込んだ。」

- (4-3a) **kãʃa-r** tala-ɬa **jhɔn=jhɔn** kor-e bheŋ-e gæ-lo.  
 真鍮-GEN 皿-DEF EXP する-PF 割れる-PF 行く-PAST:3ORD  
 「その真鍮の皿は、じゃりんじゃりんと音を立てて割れてしまった。」

- (4-3b) **torobar-ɬa** **jhɔn-at** kor-e maɬi-te poɾ-lo.  
 sword-DEF EXP する-PF 地面-LOC 落ちる-PAST:3ORD  
 「その剣は、じゃりんと音を立てて突然地面に落ちた。」

4.1.2. C<sub>1</sub>VC<sub>2</sub>-aɬ と C<sub>1</sub>VC<sub>2</sub>-am/um

この2つの接尾辞は、「突然性」を表す点では4.1.1と似ているが、同時に、そのあとに伴う余韻を表現している。

- (4-4a) **dhɔp** kor-e mejhe-te boɬ-e poɾ-lo.  
 EXP する-PF 床-LOC すわる-PF 落ちる-PAST:3ORD  
 「彼(女)は床にどさっと座り込んだ。」

- (4-4b) **dhɔp-aɬ** kor-e mejhe-te boɬ-e poɾ-lo.  
 EXP する-PF 床-LOC すわる-PF 落ちる-PAST:3ORD  
 「彼(女)は床にいきなりどしゃっと座り込んだ。」

(4-4a)は(3-36)の繰り返しである。(4-4b)は、その動作の突然性と、急いで座るときに生じる摩擦が表現されている。

これに対し、/m/で終わる接尾辞は、「突然性」と、そのあとに伴う重たい余韻を表現している。

- (4-5) **dɔɾ-am/dur-um** kor-e dɔroja-ṭa bɔndho ho-lo.  
 EXP する-PF 扉-DEF 閉まった なる-PAST:3ORD  
 「ばたんと扉が閉まった。」

/ɔ/, /a/と/u/の意味の違いから予測されるように(第1節(iv)参照)、/dɔɾ-am/に比べ/dur-um/はより広がり限られた、小さな音を表す。

/dɔɾ/, /dur/は独立して使われることがないが、/dur/には下のような重複の例がある。

- (4-6) **dur=dur/dur=dar**<sup>8</sup> kor-e dɔroja-ṭa bɔndho kor-lo.  
 EXP する-PF 扉-DEF 閉まった する-PAST:3ORD  
 「あわててばたばたと扉を閉めた。」

#### 4. 1. 3. $C_1V_1C_2-a=C_1V_1C_2$ と $C_1V_1C_2-V_2r=C_1V_1C_2-V_2r$

$C_1V_1C_2-a=C_1V_1C_2$ のパターンは、出来事が速く継続して起きることを表し、 $C_1V_1C_2-V_2r=C_1V_1C_2-V_2r$ は、出来事の繰り返しが長時間続くことを表す。

- (4-7a) **ṭɔp=ṭɔp**kor-e brifti por-ch-e.  
 EXP する-PF 雨 落ちる-IMPF-PRES:3ORD  
 「雨がぼつぼつ降っている。」 ((3-32)の繰り返し)

- (4-7b) **ṭɔp-a=ṭɔp** kor-e jɔl-er phōṭa por-ch-e.  
 EXP する-PF 水-GEN 滴 落ちる-IMPF-PRES:3ORD  
 「水滴が(ぼつつつと)素早く落ち続けている。」

- (4-8a) **kɔc(=kɔc)** kor-e kaṭ-lam.  
 EXP する-PF 切る-PAST:1  
 「(柔らかいものを)一度(何度も)切った。」 ((3-28a)の繰り返し)

- (4-8b) **kɔc-a=kɔc** kaṭ-lam.  
 EXP 切る-PAST:1  
 「(柔らかいものを)素早く切った。」

- (4-8c) **kɔc-or=kɔc-or** kaṭ-lam.  
 EXP 切る-PAST:1  
 「(柔らかいものを)長い時間をかけて切り刻んだ。」

<sup>8</sup> 4.2を参照。

- (4-9a) buk     **dhuk=dhuk**     kor-ch-e.  
 胸     EXP     する-IMPF-PRES:3ORD  
 「胸がどきどきしている。」
- (4-9b) **dhuk-ur=dhuk-ur**     kor-e     hāt-ch-e.  
 EXP     する-PF 歩く-IMPF-PRES:3ORD  
 「彼（女）は、とぼとぼと歩き続けている。」

#### 4. 1. 4. C<sub>1</sub>V<sub>1</sub>C<sub>2</sub>=C<sub>1</sub>V<sub>1</sub>C<sub>2</sub>-e

C<sub>1</sub>V<sub>1</sub>C<sub>2</sub>=C<sub>1</sub>V<sub>1</sub>C<sub>2</sub>-e は、性質を描写する表現であり、文法的には形容詞として機能する。きわめて生産的な派生である。語幹の母音は、低母音の/o/と/æ/、高母音の/i/と/u/に限られる。

/o/の例:

- (4-10) akaf     to     **phoṭ=phoṭ-e**,     cək=cək     kor-ch-e.  
 空     EMPH   EXP     EXP     する-IMPF-PRES:3ORD  
 「空は青く晴れ渡り、一点の翳りもない（ちらちら輝いている）。」  
 （「船頭タリニ」）（(1-8)の繰り返し）

この expressive の語幹/phoṭ/は、tatbhava（サンスクリット変容語彙）の/phoṭik/「透明な」からの借用である。この例に見るように、語幹の母音が/o/のときは、接辞/-e/に逆行同化して、重複した音節の母音は中母音/o/となる。

同様の母音パターン：

- (4-11a) **jhol=jhol-e**     jama     「だらっとした/垂れ下がった服」(3-45)  
 EXP     服
- (4-11b) **dol=dol-e**     bhat     「柔らかすぎる飯」(3-46)  
 EXP     飯
- (4-11c) **dhob=dhob-e**     ṣada     「ぴかぴかの白」  
 EXP     白
- (4-11d) **kən=kən-e**     haoa     「凍てつく風」  
 EXP     風

いっぽう、語幹母音が/æ/のときは、重複した音節の母音は/e/となる。

- (4-12a) **kæn=ken-e**     mee     「口やかましい女」  
 EXP     女
- (4-12b) **ghæn=ghen-e**     chele     「ぎゃあぎゃあうるさく泣く子供」  
 EXP     子供



語幹母音が高母音/i/と/u/のときは、同じ母音が繰り返される。

- (4-13a) **ṭip=ṭip-e**      briṣṭi      「ぴちやぴちや降る雨」 (cf. (1-3), (1-6))  
 EXP                      雨
- (4-13b) **phin=phin-e**      kapoṛ      「肌理の細かい布」  
 EXP                      布
- (4-14a) **jhur=jhur-e**      bali      「さらさらこぼれる砂」  
 EXP                      砂
- (4-14b) **tul=tul-e**      gal      「(子供の) 柔らかい頬」  
 EXP                      頬

#### 4.1.5. $C_1iC_2i=C_1iC_2i$ と $C_1uC_2u=C_1uC_2u$

$C_1iC_2i=C_1iC_2i$  と  $C_1uC_2u=C_1uC_2u$  は、/i/または/u/の繰り返しによる指小辞 (diminutive) の機能をもった、修辭的な表現である。一般的には 4.1.4 と同じく性質形容詞として用いられるが、述部として機能することもある。

$C_1iC_2i=C_1iC_2i$  の例 :

- (4-15) le,                      mathali tu      matha-e de.  
 取る+IMP:2INT      笠      2INT      頭-LOC 与える+IMP:2INT
- ṭipi=ṭipi**      jol      bhari      kharap.  
 EXP                      水      とても      悪い

「さあ、この笠をかぶって、濡れないようにするんだ。小雨 (ぼつぼつ雨) が、一番身体にこたえるからな。」 (「船頭タリニ」) ((1-6)の繰り返し)

$C_1uC_2u=C_1uC_2u$  の例 :

- (4-16a) **bho-e**      buk      **dur=dur**      kor-ch-e.  
 恐怖-LOC      胸      EXP      する-IMPF-PRES:3ORD  
 「恐怖に胸がどきどきしている。」
- (4-16b) **duru=duru**      hia  
 EXP                      心臓  
 「どきどきしている心臓」

輝きを表す語根/jhok/の指小辞形/jhik/ ((1-12)参照)、雨音を表す語根/jhom/の指小辞形/jhim/、鈴の音などの金属製の音を表す/jhon/の指小辞形/jhun/から作られた、次のような形がある。後者の2つの形は、響きを表す/r/による前方重複によって形成されている。これはいずれも頻度の高い美的・修辭的な表現であり、上の派生パターンから語彙化されたものと見るべきであろう。

- (4-17) godhuli-r      alo      **jhiki=miki**      kor-itech-e.  
 黄昏時-GEN      光      EXP      する-IMPF-PRES:3ORD

「黄昏時の光がちらちら光っている。」（「花環と白檀」）（(1-12)の繰り返し）

(4-18) **rimi=jhimi**      briʃti      「しとしと雨」  
 EXP                      雨

(4-19) **runu=jhunu**      nupur=ddhoni      「しゃんしゃん鳴る足鈴の音」  
 EXP                      足鈴=音

## 4.2. 母音交替による重複

第1節の(iv)と(ix)、また第3節の例(3-2)で明らかのように、音節母音は音や印象の強さ、広がり、好意的印象などの程度を表現する。

語幹が重複されるとき、母音交替によって、表出される音や印象の動的なニュアンスを表現することがある。最も多いのは/u/と/a/の交替である。/a/のほうが、/u/に比べ、より大きな音や広がりや印象を与えるため、(1-4)に見るように、/u/->/a/の順序で重複される場合が多い。この例を下に再掲する。

(4-20) paʃ-er    gach-guli-r                      pata-e    pata-e    jɔl  
 側-GEN 木-DEF.pl:DIM-GEN      葉-LOC 葉-LOC 水  
 jhor-itech-e                      ʃup=ʃapʃup=ʃap.  
 落ちる-IMPF-PRES:3ORDEXP      EXP  
 「道の側に並ぶ樹々の葉からは、ぽたぽた、ぽたぽたと水滴が落ちていた。」  
 （「郵便配達夫」）

更に、下のような例がある。

(4-21a) ʃuŋ=ʃaŋ                      aoaj                      「ちんちん響き続ける音」  
 EXP                                  音

(4-21b) ʃhuŋ=ʃhaŋ                      aoaj                      「しゃんしゃん響き続ける音」 (cf. (3-58))  
 EXP                                  音

どちらも金属が鳴り響く音であるが、/t/よりも/ʈh/のほうがより大きなよく響く音を表す。

(4-22a) **dum(=dum)**      kor-e    kil      mar-lo.  
 EXP                      する-PF 拳      叩く-PAST:3ORD  
 「ぼか（ぼか）っと拳で殴った。」

- (4-22b) **dum=dam** kor-e col-e gæ-lo.  
 EXP する-PF 進む-PF 行く-PAST:3ORD  
 「ばたばたと (大急ぎで) 立ち去った。」

本節 4.1 の派生によって生じた重複形にも、同様な母音交替が起こりうる。この例では、/u/->/a/と/a/->/u/の2つのパターンが用いられる。

- (4-23) **ṭupur=ṭapur/ṭapur=ṭupur** briṣṭi por-ch-e.  
 EXP 雨 降る-IMPF-PRES:3ORD  
 「ぽつりぽつりと雨が降り続けている。」

### 4.3. 𑖇重複

「<sup>こだま</sup>𑖇重複 (echo reduplication)」とは、音節初頭子音が入れ替わる重複形のこと、後接要素の初頭子音のタイプによってさまざまなニュアンスが加わる。

このうち、最も頻度が高く、その意味がはっきりしているのは、/m/による𑖇重複である。(1-10)~(1-12)、(3-3)などで見たように、/m/は、音や視覚的印象の深さを表現する。(3-3)を再掲する。

- (4-24) **hau=hau/hau=mau** kor-e kād-ch-e.  
 EXP する-PF 泣く-IMPF-PRES:3ORD  
 「彼 (女) はわんわん泣いている。」

**hau=hau** に比べ、**hau=mau** はより深く、激しい泣き方を表現する。

語幹/kɔc/ (cf. (3-28)) に基づく𑖇重複の例：

- (4-25a) **kɔc=mɔc** kor-e cibo-cch-e.  
 EXP する-PF しゃぶる-IMPF-PRES:3ORD  
 「彼 (女) は (柔らかいものを) むしゃむしゃしゃぶっている。」

- (4-25b) **kɔcor=mɔcor** kor-e cibo-cch-e.  
 EXP する-PF しゃぶる-IMPF-PRES:3ORD  
 「彼 (女) は (柔らかいものを) むしゃむしゃしゃぶり続けている。」

(4-17) ((1-12)の繰り返し) のように、語彙化されている例もある。再掲すると：

- (4-26) godhuli-r alo **jhiki=miki** kor-itech-e.  
 黄昏時-GEN 光 EXP する-IMPF-PRES:3ORD  
 「黄昏時の光がちらちら光っている。」 (「花環と白檀」)

/m/の他に、併重複によく使われる子音は、調音点が同じく両唇である閉鎖音/p/, /ph/, /bh/と、硬口蓋閉鎖音の/c/である。

(4-27a) **cɔʈ** kor-e khe-e na-o.  
 EXP する-PF 食べる-PF 取る-IMP:2ORD  
 「さっさと食べちゃいなさい。」

(4-27b) **cɔʈ=poʈ** kor-e khe-e ni-lo.  
 EXP する-PF 食べる-PF 取る-PAST:3ORD  
 「大あわてで食べ終わった。」

(4-28a) **bacca-ʈa** **bhã=bhã** kor-e kãd-ch-e.  
 赤ん坊-DEF EXP する-PF 泣く-IMP:3ORD  
 「その赤ん坊はぎゃあぎゃあ泣いている。」

(4-28b) **bacca-ra** **cã=bhã** kor-e kãd-ch-e.  
 赤ん坊-pl EXP する-PF 泣く-IMP:3ORD  
 「赤ん坊たちがぎゃあぎゃあ泣きわめいている。」

(4-27b)は、(4-27a)にある語幹/cɔʈ/からの、子音/p/による順行併重複によって生じたものと思われる。いっぽう、(4-28b)は、(4-28a)にある語幹/bhã/の逆行併重複によって生じたものである。

(4-29a) **chele-ra hoi=hoi** kor-ch-e.  
 子供-pl EXP する-IMP:3ORD  
 「子供たちが歓喜の声をあげている。」

(4-29b) **chele-ra hoi=coi** kor-ch-e.  
 子供-pl EXP する-IMP:3ORD  
 「子供たちが大騒ぎしている。」

(4-29b)は、(4-29a)にある語幹/hoi/の/c/による順行併重複によって生じたものであろう。これに対し、下に挙げる(4-30)では、/choʈ/も/phoʈ/も単独の語幹として用いられないため、どちらの方向に重複されているとも言えない。

(4-30) **jontrona-e** **choʈ=phoʈ** kor-ch-e.  
 苦痛-LOC EXP する-IMP:3ORD  
 「苦痛にのたうち回っている。」

この他、他の子音による併重複ないし初頭子音の脱落と思われる、下のような例がある。もとの語幹を特定できるもの、できないものがある。それぞれの語彙について、今後の検討が必要であろう。

- (4-31a) ama-r pet **ḍai=ḍai** kor-ch-e.  
 1sg-GENおなか EXP する-IMPF-PRES:3ORD  
 「私のおなかは**いっぱい**だ。」
- (4-31b) am-ar pet **ai=ḍai** kor-ch-e.  
 1sg-GENおなか EXP する-IMPF-PRES:3ORD  
 「私のおなかは**のどまで**いっぱいだ。」 ((1-2)参照)
- (4-32a) amar gola **kuḥ=kuḥ** kor-ch-e.  
 1sg-GENのど EXP する-IMPF-PRES:3ORD  
 「私ののどは**ひりひり**している。」
- (4-32b) koṭha-ṭa bol-bar jonno **uḥ=kuḥ** kor-ch-i.  
 こと-DEF 言う-VN:GEN ため EXP する-IMPF-PRES:1  
 「私はそのことを言いたくて**うずうず**している。」 ((1-2)参照)
- (4-33) o-ra **ele=bele** koṭha bol-ch-e.  
 3ORD.FAR-pl EXP 言葉 言う-IMPF-PRES:3ORD  
 「彼らは**意味もない**たわ言を (べらべら) しゃべっている。」

## 5. Expressives に類似の文法・語彙現象

ベンガル語の文法・語彙には、expressives と似た、形態音韻と意味の直接的な対応が見られる現象が、かなり広汎に見られる。それらのうち、顕著な現象を、下に述べることにする。こうした現象は、これまでの記述文法では周縁的な現象として取り扱われるのが常であったが、本論で記述した expressives の、ベンガル語文法に占める重要性を考えると、そのような扱いでいいのかという疑問を生じさせる。expressives の包括的な分析と相俟って、今度本格的な検討が必要であろう。

- (1) 完全重複
- (2) 研重複
- (3) 母音交替
- (4) 初頭音節交替
- (5) 相互名詞 CVCa=CVCi
- (6) 定辞/類別詞/数詞
- (7) 呼び名
- (8) 動詞語彙

### 5.1. 完全重複

完全重複は、語彙的な内容を表す品詞すべてについて、生産的である。

(A) 名詞

おもに場所格に用いられ、複数性を表す。

(5-1a) gram-e gram-e 村々に／で  
村-LOC 村-LOC

(5-1b) majh-e majh-e 時々 (間々に)  
間-LOC 間-LOC

(B) 代名詞

主格 (無標)、場所格に用いられ、複数性を表す。

(5-2a) ke ke 誰々  
誰 誰

(5-2b) ki ki 何々  
何 何

(5-2c) kotha-e kotha-e 何処何処で  
何処-LOC 何処-LOC

(C) 程度形容詞／副詞

(i) 程度が強いことを表す。名詞修飾の場合は修飾する名詞の複数性を表すこともある。

(5-3a) boro boro cokh とても大きな目／大きな両目  
大きい 大きい 目

(5-3b) aste aste とてもゆっくり  
ゆっくり ゆっくり

(ii) 「ほとんど～」という意味を表す。

(5-4a) ca gorom gorom khe-te ho-be.  
茶 熱い 熱い 飲む-IMPF なる-FUT:3ORD  
「お茶は冷めないうちに飲まなければならない。」

(5-4b) cupi cupi col-o.  
黙って 黙って 進む-IMP:2ORD  
「そおっと (ほとんど音を立てず) に進め。」

(D) 動詞

(i) 動作の繰り返し (完了形)。

(5-5a) chele-ta phir-e phir-e taka-cch-e.  
子供-DEF 振り返る-PF 振り返る-PF 見つめる-IMP-F-PRES:3ORD  
「その子は、何度も振り返っては見つめている。」

(5-5b) toma-ke dekh-e dekh-e bujh-te ho-be.  
2ORD-OBJ 見る-PF 見る-PF 理解する-IMPF なる-FUT:3ORD  
「君は何度も見ながら理解しなければならない。」

(ii) 「ほとんど～」 という意味を表す (未完了形、習慣形)。

(5-6a) ami mor-te mor-te bē-ce gech-i.  
 1 死ぬ-IMPF 死ぬ-IMPF 生き延びる-PF 行く+PF-PRES:1

「私はすんでのところで死なず生き残った。」

(5-6b) ja-e ja-e obostha  
 行く-PRES:3ORD 行く-PRES:3ORD 状態

「今にも死にそうな状態」

## 5.2. 併重複

ベンガル語では、併重複は文法化されており、/t/, /ph/, /ʃ/, /m/の4種類の子音による交替が起きる。「～やなにか」という曖昧な複数性の他に、その交替子音の選択に応じて、特定のニュアンスが付与される。この中で、最初の/t/は中立的な表現で、どの品詞とも特に生産的に併重複を形成する。

(A) /t/による併重複

(5-7a) ca=ta 「お茶やなんか」  
 茶=EDUP

(5-7b) bhalo=ṭalo 「いいかどうか」  
 いい=EDUP

(5-7c) o-ra=ṭora 「彼らなんか」  
 3ORD.FAR-pl=EDUP

(5-7d) jodi=ṭodi 「もしもなんて」  
 もし=EDUP

(5-7e) ja-ben=ṭaben na. 「行ったりしないでください」  
 行く-FUT:2HON=EDUP NEG

(B) /ph/による併重複は、軽蔑や価値を貶める表現に用いられる。

(5-8a) ca=pha 「お茶やなんかのつまらないもの」  
 茶=EDUP

(5-8b) bhalo=phalo 「いいかどうかなんてばかげたこと」  
 いい=EDUP

(C) /ʃ/による併重複は、程度表現をやわらげるのに用いられる。

(5-9a) moṭa=ʃoṭa 「太り気味の」  
 太った=EDUP

(5-9b) boka=ʃoka 「バカっぽい」  
 バカ=EDUP

(5-9c) majh-e=fajh-e 「ときたま」  
間-LOC=EDUP

(D) /m/による併重複は、怒りや攻撃的な表現に用いられる。

(5-10a) reg-e=meg-e 「腹を立てまくって」  
怒る-PF=EDUP

(5-10b) khõc-a=moc-a 「(人のあらを捜して) 突つき回すこと」  
突つき-VN=EDUP

この他、下のよう、/b/による併重複もたまに見られるが、特にはっきりしたニュアンスが付加されておらず、上の/t/による併重複との意味的な違いがはっきりしない。

(5-11a) cakri=bakri 「仕事やなんか」  
仕事=EDUP

(5-11b) cakor=bakor 「召使いやなんか」  
召使い=EDUP

### 5.3. 母音交替による重複

ほとんどが名詞である。4.2 であげたような、/u/と/a/の交替による重複が多いが、(5-12e)のように、/i/と/a/が交替する例も、稀に見られる。

(5-12a) bhul=bhal 「誤りやなんか」  
誤り=VDUP

(5-12b) khucro=khacra 「小銭やなんか」  
小銭=VDUP  
(語末の/o/も、交替母音の/a/に同化して/a/に変化)

(5-12c) ṭhakur=ṭhukur 「神様やなんか」  
神様=VDUP

(5-12d) phāki=phūki 「ごまかしやなんか」  
ごまかし=VDUP

(5-12e) bhiṛ=bhaṛ 「混雑やなんか」  
混雑=VDUP

### 5.4. 第1音節の交替による重複

これもほとんどが名詞である。後半要素は、元の語彙の第1音節が交替して形成される。それ自体としては意味がない。



- (5-13a) chele=pile 「子どもやなんか」<sup>9</sup>  
 子供=SDUP
- (5-13b) kapoṛ=cəpoṛ 「衣類やなんか」  
 衣類=SDUP
- (5-13c) baṣon=kəṣon 「食器類やなんか」  
 食器類=SDUP

### 5.5. 相互名詞 (CVCa=CVCi)

動名詞(VN)語幹の/a/を/i/で交替させて形成される重複語幹で、相互性、ないし(自動詞の場合は)出来事の複数性を表す名詞を派生する。動詞語幹が低母音(/a/を除く)ないし中母音である場合は、(5-14b), (5-14c)のように、逆行同化により一段高い母音に変化する。

- (5-14a) mar-a=mar-i 「殴り合い」  
 なぐる-VN=RECIP
- (5-14b) dəkh-a=dekh-i 「お互いを観察すること」  
 見る-VN=RECIP
- (5-14c) ghor-a=ghur-i 「あちらこちら回ること」  
 回る-VN=RECIP

多音節動詞の場合は、/a/で終わる語幹から、同様の名詞を派生する。

- (5-15a) baṛa=baṛi 「大きさにすること」  
 増やす=RECIP
- (5-15b) douṛa=douṛi 「走り回ること」  
 走る=RECIP

名詞、形容詞語幹の/a/で終わるからも、同様の過程を経て、副詞を形成することがある((5-16a))。子音で終わる名詞語幹は、(5-16b)に見るように、接尾辞/-a/をとる。この接尾辞はその前に高母音が来るとき、順行母音同化を起こして/-o/に変化する((5-16c~d))。

- (5-16a) ſoja=ſuji 「率直に」  
 真っ直ぐの=RECIP
- (5-16b) cokh-a=cokhi 「目と目を合わせて」  
 目=RECIP

<sup>9</sup> 'pile' は「子供」の意味のタミール語語彙からの借用である。

- (5-16c) mukh-o=mukhi 「向かい合わせに」  
顔=RECIP
- (5-16d) piṭh-o=piṭhi 「背中合わせに」  
背中=RECIP

## 5.6. 定辞/類別詞/数詞

定辞、類別詞、数詞には、普通形と指小形がある。普通形と指小形は、典型的に、/a~/o/と/i/の対立で表される。/i/は、歴史的には、中世ベンガル語 (MB, Middle Bengali) の女性形の名残りである。

- (5-17a) boi-ṭa 「その本」  
本-DEF
- (5-17b) boi-ṭi 「その (小さい・美しい) 本」  
本-DEF:DIM
- (5-18a) boi-gulo 「それらの本」  
本-DEF.pl
- (5-18a) boi-guli 「それらの (小さい/美しい) 本」  
本-DEF.pl:DIM
- (5-19a) boi-khana 「その (固形物としての) 本」  
本-DEF.SOLID
- (5-19b) boi-khani 「その (固形物としての・小さい/美しい) 本」  
本-DEF.SOLID:DIM
- (5-20a) chele-ṭa 「その子供」  
子供-DEF
- (5-20b) chele-ṭi 「その (可愛い) 子供」  
子供-DEF:DIM
- (5-21a) chele-gulo 「その子供たち」  
子供-DEF.pl
- (5-21a) chele-guli 「その (可愛い) 子供たち」  
子供-DEF.pl:DIM
- (5-22a) æk-ṭa            boi 「一冊の本」  
one-NONH            本

(5-22a)	ek-ti <sup>10</sup> one-DIM	boi 本	「一冊の（小さい/美しい）本」
(5-23a)	æk-jɔn one-HUMAN	chele 子供	「一人の子供」
(5-23b)	ek-ti <sup>10</sup> one-DIM	chele 子供	「一人の（可愛い）子供」

## 5.7. 呼び名

個人名の短縮形は呼び名として用いられる。一般に、/-u/, /-i/で終わる形は指小形の機能を果たす。

(5-24)	pɔncanon pɔcai pocu	「正式名（男性）」 「親しみをこめた呼び名」 「愛称」
(5-25)	dinobondhu dina dinu	「正式名（男性）」 「バカにした呼び名」 「愛称」
(5-26)	ʃona ʃonai ʃonu	「正式名（女性）」 「親しみをこめた呼び名」 「愛称」

## 5.8. 動詞語彙

ベンガル語の語彙、特に動詞語彙に、expressives との関連が推測されるものが多い。これらの歴史的起源は複雑である。

そのうちのあるものは、expressives から派生したと考えられる。

(5-27)	mɔtka-	「ぼきっと折る」 < mɔt 「ぼきっと」 ((3-27) 参照)
--------	--------	-----------------------------------

また、(5-27)とは逆に、動詞から expressives が派生したと考えられる場合もある。

(5-28)	ghur=ghur kɔr-	「ぐるぐる回る」 < ghor- 「回る」 ((5-14c) 参照)
--------	----------------	------------------------------------

<sup>10</sup> 数詞/æk/の/æ/は、指小形の接尾辞/-ti/の母音/-i/に逆行同化して、/e/に変化する。

いっぽう、似た語幹をもつベンガル語の動詞と *expressives* の両方が、サンスクリット語の語幹から派生したとされる例もある。下の(5-29)は、2つとも同じ語幹から派生したとされる例であり、また(5-30) ((3-24)参照) は、それぞれが異なる語幹から別々に派生したとされる例である。

(5-29) **jol=jol kor-** 「ぎらぎらする」  
**jol-** 「燃え輝く」  
 < \*/jval-/ 「燃え輝く」 (サンスクリット)

(5-30) **kaṭ=kaṭ** 「ことごとと (切る)」  
 < \*/kaṭṭa/ 「ことごと」 (サンスクリット)

**kaṭ-** 「切る」  
 < \*/kṛt-/ 「切る」 (サンスクリット)

こうした歴史的説明が、ほんとうにこれらの語彙の生成過程を反映したものなのか、生成の過程で類推が果たした役割がないのかどうか、という疑問が生じる。

今後、こうした動詞語彙と *expressives* のペアをより広汎に取り上げ、その生成過程を検討する余地があるように思う。

## 6. Expressives の音韻形態と、意味との関連について — 暫定的なまとめ

本論の第1, 3, 4節で、ベンガル語の *expressives* の音韻形態と意味との関連を、さまざまな角度から取り上げてきた。また第5節では、このような関連との共通性が見られる他の文法・語彙現象を概観してみた。

まず、ベンガル語の *expressives* の音韻形態と意味との関連について、これまでの議論から一般化できそうな点を下に列挙する。

- (1) ベンガル語の *expressives* では、語幹の音節構造の違い ( $C_1VC_2/CV$ ) が、表出される出来事全体の大まかな時間的な構造の違い (明示的な終結点がある (telic) かない (atelic) か) を示す。
- (2) 語幹の重複によって、出来事が継起したり状態が継続することを表す。
- (3) 語幹初頭子音 (CV における C,  $C_1VC_2$  タイプの語幹における  $C_1$ ) のタイプが、表出する出来事がもたらす聴覚的・視覚的・触覚的特徴を象徴的に表現する。
- (4) 中核母音は、その出来事がもたらす音の量や印象の強さ・鋭さ・広がり、聞き手にもたらす好悪感を表す。
- (5)  $C_1VC_2$  タイプの語幹において、語幹末の  $C_2$  は、出来事の終結の様態を表す。
- (6) その他、接尾辞の付加や併重複等の派生により、さまざまなニュアンスを加えることができる。

ここで述べた音韻形態と意味との直接の連関は、expressives という品詞において体系的に構造化されたものであるが、その連関を構成する要素のひとつひとつについては、ベンガル語の他の文法現象や語彙形成との間に共通性が見られる。たとえば、重複や併重複が表す出来事の複数性、高母音/i/や/u/が表す指小表現、動词语彙の多くに見られる expressives に類似の音と意味の連関、など。

今後、ベンガル語の expressives のより組織的な分析を行いながら、これらの文法・語彙現象と expressives の関係、こうした現象がベンガル語の文法の中に占める位置について、考察を深めたい。

## 参考文献

- Diffloth, Gérard. (1972) 'Notes on expressive meaning', Papers from the Eighth Regional Meeting of the Chicago Linguistic Society, 440-448.
- Diffloth, Gérard. (1979) 'Expressive phonology and prosaic phonology in Mon-Khmer', Theraphan L-T. et al. (eds.) *Studies in Tai and Mon-Khmer phonetics and phonology in honor of Eugenie J. A. Henderson*, Bangkok: Chulalongkorn University Press, 49-59.
- Diffloth, Gérard. (1994) 'i:big, a:small', L. Hinton, J. N. and J. Ohala (eds.) *Sound Symbolism*, New York: Cambridge University Press, 107-114.
- ṭhākura, rabīndranāth (1935) *śabda-tattva*, Santiniketan: Visva-Bharati.
- Voeltz, F. K. E. & Kilian-Hatz, C. eds. (2001) *Ideophones*, Amsterdam: John Benjamins.
- 長田俊樹 (2009) 「ムンダ語の感情語」、稲垣和也・大西正幸編『地球研言語記述論集 1』、京都：総合地球環境学研究所、35-66.
- 田守育啓・ローレンス＝スコウラップ (1999) 『オノマトペ—形態と意味』、東京:くろしお出版。
- タラションコル・ボンドパッタエ(著)、大西正幸(訳・解説) (2016) 『船頭タリニ』、東京:めこん社。
- 浜野祥子 (2014) 『日本語のオノマトペ 音象徴と構造』、東京:くろしお出版。

## 文法用語略号表

略号 (グロス)	英語	日本語
1	1st person	1 人称
2	2nd person	2 人称
3	3rd person	3 人称
DEF	definite	定
DIM	diminutive	指小
EDUP	echo reduplication	<small>こだま</small> 重複 (子音交替重複)
EMPH	emphatic	強調
EXP	expressive	expressive (エクスペッシブ)
FUT	future	未来形
GEN	genitive case	属格
HAB	habitual	習慣形
HON	honorific	尊敬
HUMAN	human	人間
IMP	imperative	命令形
IMPF	imperfective	未完了分詞/形
INT	intimate	親密
INV	invisible	不可視
LOC	locative case	所格
NEG	negative	否定辞
NONH	nonhuman	人間以外
OBJ	objective case	目的格
ORD	ordinary	同等
PAST	past	過去形
PF	perfective	完了分詞/完了形
pl	plural	複数
PRES	present	現在形
RECIP	reciprocal noun	相互名詞
FAR	far	遠称
SDUP	syllable alternating reduplication	音節交替重複
sg	singular	単数
SOLID	solid object	固形物
VDUP	vowel alternating reduplication	母音交替重複
VN	verbal noun	動名詞